

アレルギーマーチの予防を目的とした 医療従事者向け赤ちゃんのスキンケア 教育プログラムと連携システムの構築

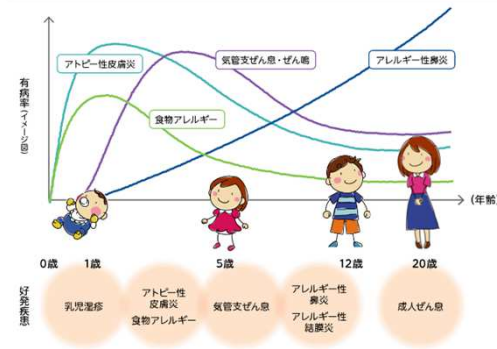
大学院生命科学研究部（医学系） 講師 柏田 香代

目的とするSDGsゴール



1. 教育・研究の概要

熊本県内の多職種（助産師・保健師・看護師・医師・薬剤師・管理栄養士）を対象に、乳幼児の皮膚トラブル支援の現状と課題を明らかにする実態調査を実施した。その結果を基盤として、専門的知識と養育者への指導技術を効率的に修得できる教育プログラムおよび教材を開発した。さらに、小児アレルギー専門医や皮膚科専門医、専門看護師らによる講義と沐浴法などのハンズオン研修を組み合わせた実践的研修会を行い、地域全体の対応力向上を図った。居住地にかかわらず熊本県のすべての乳幼児が適切なスキンケアと早期治療介入を受けられる地域連携体制の構築を目指す。



2. 教育・研究の目的

多職種連携による養育者の指導技術の標準化と地域間格差の解消を図り、周知不足による受診の遅れや介入不足を未然に防ぐことで、乳児湿疹に起因するアトピー性皮膚炎や食物アレルギーの発症予防および適切な治療が等しく提供される社会を実現することである。

3. 今年度実施した教育・研究

対象と方法：熊本大学主催の「赤ちゃんのスキンケア研修会」に参加した医師、看護師、助産師、保健師167名を対象に、養育者の指導で直面している「困りごと」について、Googleフォームを用いて選択式の無記名オンライン調査を実施し、多重対応解析を実施した。

結果：多職種の困りごとは、解析により以下の3グループに分類された。

- ①**教育資源・体制の不備：**指導マニュアルや適切なリーフレット、動画の不足が示された。
- ②**現場レベルの連携・紹介の課題：**受診を勧める先（小児科か皮膚科か）がわからない、相談できる医師がいない、（他の）医療機関に紹介するタイミングが難しいという項目が挙げられた。特に、助産師、保健師などプレホスピタルの医療従事者が、医師や看護師に比較して有意に高く、困難を抱えていることが明らかになった。
- ③**時間・人員の不足：**医師・看護師において、顕著な課題として示された。

・上記の取組によって生まれた成果（SDGs達成へどのように貢献するのか）

本研究では、乳児期アトピー性皮膚炎の早期介入を地域で実装するための課題を明らかにし、連携・紹介体制および指導支援の必要性を示した。これを受け、以下の資料の開発を行った。

- ① **赤ちゃんのスキンケア教育動画を制作（厚生労働省モデル事業の予算を使用）**
- ② **標準化パンフレットを印刷し、県内の研修会参加者（医療機関・行政担当者）へ配布**

本取組により、多職種が共通教材を活用できる環境を整備し、地域全体で乳児アレルギー予防に取り組むポピュレーションアプローチの基盤を構築した。乳幼児期からのアレルギーの予防・早期介入により子どもと家族の心身の健康を守ること（SDGs3）医療従事者への体系的研修により質の高い学習機会を提供（SDGs4）地域格差を是正する人材育成（SDGs10）一貫した支援体制を構築し、安心して子育てできる持続可能な地域づくり（SDGs11）に貢献した。

・今後の展望

本研究を継続的に県内全域へ展開し、標準化教材と地域連携体制を制度化する。そのために、公的助成や研究費等の外部資金を獲得し、持続可能な運営基盤を確立する。さらに成果を検証・発信し、全国展開可能な地域アレルギー予防モデルへ発展させる。

本研究は、熊本大学大学院生命科学研究部の人を対象とする生命科学・医学系研究の疫学・一般部門倫理委員会により承認を受けて実施された（倫理第3018号）。